医療法人喬成会　花川病院　広報誌

つながる手と手

～はなかわからのメッセージ～

第 25 号

もくじ

●着任のご挨拶
●リハビリシュミレーションハウス
●石狩リハビリテーション地域連携懇話会について
●特定健康診査・後期健康診査とは
●口内炎と薬
●新入職員のご紹介
●福祉用具のご紹介

●令和 2 年 5 月 29 日発行　●発行人：菅沼　宏之　●編集長：金子宏美　●企画・製作：花川病院地域連携相談センター
医療法人喬成会花川病院　〒061-3207　石狩市花川南 7 条 5 丁目 2 番地　代表電話（0133）73-5311
花川病院ホームページ　http://kyouseikai.jp/

着任のご挨拶

４月１日から院長に就任しました菅沼宏之（すがぬま　ひろし）と申します。リハビリテーション医療に携わって２８年になります。当院は、病気による手足のけがによる運動障害や言葉の障害、食べたり飲んだりすることの障害である嚥下障害の治療に特化したリハビリテーション病院です。この病院で熱意のあるリハビリテーションスタッフや患者様の生活への支援に熱心な看護師や介護職、そして患者様の在宅生活への復帰に活躍する医療ソーシャルワーカーと一緒にチームを組んで医療をできることを大変うれしく思っています。病気になることは患者様・ご家族にとっては不幸なことではありますが、その中で少しでも希望をもって次の生活に進んでいけるようにチームの総力で取り組んでいく決意です。どうぞよろしくお願いいたします。

（院長　すがぬま）

リハビリシミュレーションハウス

～一軒家をリハビリテーションで活用できるように整備しました！～

この度、同敷地内にリハビリシュミレーションハウスが完成しました。

　このリハビリシュミレーションハウスは、自宅生活を想定して、複数の日常生活動作や家事動作を連続的にシュミュレーションすることができます。
玄関、居室などの手すり設置、段差解消等の住宅改修のシミュレーションも可能です。

当院ではリハビリを受けられている方に対して、リハビリスタッフがこの施設を活用しながら、実践的で効果のあるリハビリを提供できるように努力しています。
また今は、当面見合わせていますがご家族の方にもリハビリ場面を見学していただくことで、退院後の在宅生活の動作の確認や、必要な環境の調整について分かりやすくお伝えすることで安心して自宅での生活に戻れるよう支援しています。

シュミレーションハウス内の様子は、普通の住宅と同じように、段差があり家具や電化製品も置いています。病院の中では体験できない動作練習として（例えば、調理、掃除、洗濯、雪かきなど。）

ご自宅で生活するイメージをふくらませながらリハビリを行うことができる施設となっております。

（リハビリテーション部）

石狩リハビリテーション地域連携懇話会について

令和２年２月１０日、札幌グランドホテルにて第２２回石狩リハビリテーション地域連携懇話会を開催しました。今回は「脳のしくみからから見る高次脳機能障害・認知症～よりよいアプローチのために～というテーマで北海道大学大学院保健科学研究院の大槻美佳先生より講演いただきました。

講演では、高次脳機能障害とは麻痺・感覚障害・失調など要素的な身体症状によるものではない言語・認知・行為・記憶及びそれらの維持に必要な背景の機能障害であり、例え症状が同じであるからと言っても障害の機序が違えばそのアプローチの方法が同じであるとは限りません。

例えば、認知機能についても一言で「失認」があると言っても、箱を見てもそれが何かわからず模写もできないが触れると箱であると認識できるような失認もあれば、箱を見て模写はできるがそれが何かはわからない、しかし触れることで箱であると認識できるという違いがあったり、特殊な例としては他のものについては認識できるのに人の顔のみ見分けがつかなくなるようなものや、知っている景観の見分けがつかなくなるような失認の症状もあります。その症状を詳しく見ていくことで、リハビリの介入方法も違えば日常の援助方法も違ってくるのです。また、先生はこの講演の中で「失語症」にも大きく分けると「言葉が出ない」と「言葉が理解できない」ものがあるが、それも細かく症状によって細分化されており、声のトーンやスピードを変えるとよいケースや声に出すよりも漢字や絵を併用した方が理解しやすいケースなど同じ失語という症状でも対応の方法で理解しやすい方法が違う。共通して言えるのは失語症とは「音」の処理が苦手となるので平仮名やカタカナを読むよりも漢字の方がわかりやすいとのことでした。講演後の懇親会でも、先生に質問される方も多くみられ、その一つ一つに丁寧にお答えいただいていました。また、多職種からの参加があり普段交流できない職種の方との連携を深めることができたかと思います。

当院では、今年度もリハビリテーション地域連携懇話会を開催する予定です。開催が決定しましたらお知らせしたいと思いますので、ご期待ください。

（保健師　いけだ）

特定健康診査・後期健康診査（特定健診）について

　年度初めということで、今回は当院で行っている特定健康診査・後期健康診査（特定健診）についてお知らせしたいと思います。

特定健康診査（特定健診）とは
日本人の死亡原因の約６割を占める生活習慣病の予防のために、４０歳から７４歳までの方を対象に、メタボリックシンドロームに着目した健診のことです。
生活習慣病は、一人一人が、バランスの取れた食生活、適度な運動習慣を身に付けることにより予防可能です。ご自身の健康状態を毎年確認し、健康づくりにつなげていくことが重要です。１年一度、特定健診を受診し、生活習慣の改善が必要な方は、特定保健指導を受けましょう。

と厚生労働省の政策であり、当院も市民のみなさんの健康に関してお助けできればと協力しています。後期健康診査は北海道後期高齢者医療広域連合の被保険者を対象とする特定健診のことです。
かかりつけの病院・クリニックがある方はご自身の健康状態を把握されているかと思いますが、かかりつけのない方は健康状態を知る第一歩として健康診査を受けてみてはいかがでしょうか？
花川病院では月曜日と金曜日に健診を受けることができます。
受付時間は９：00～11：30 となっています。予約制となっていますので代表の電話番号（TEL：0133-73-5311）までお願い致します。
　元気でいきいきと生活するために、１年に１回健康診査を受診して健康管理に努めましょう！
☆石狩市については５月頃に受診券を送付しているとのことです。
☆各種がん検診・骨粗鬆症・歯科検診については当院では行っておりませんのでお住まいの市区町村の広報・ホームページ等でご確認ください。

（医事課　たけいし）

口内炎とおくすり

「口内炎」とは、口の中や周辺の粘膜に起こる炎症の総称です。口内炎になってしまうと食事を摂るのが非常につらくなってしまうかと思います。実は、そんな口内炎は以下のようにいくつか種類があります。

・アフタ性口内炎・・・ストレスや免疫力の低下、栄養不足（主にビタミン）が原因
・カタル性口内炎・・・口腔内を噛んだり、入れ歯などの接触による物理的刺激が原因
・ウイルス性口内炎・・・主にヘルペスウイルスが原因

一般的にもっとも多くみられるのが「アフタ性口内炎」です。症状として、赤く縁取られた2～10mm程度の丸くて白い潰瘍が、ほお・唇の内側・舌・歯ぐきなどに発生します。通常は10日～2週間ほどで自然に消滅してあとは残りません。

では、口内炎にはどんなおくすりが使われるのでしょうか。口内炎に使用されるおくすりには、殺菌成分・消毒成分・抗炎症成分（ステロイド）などが含まれている場合がほとんどです。また、粘膜を保護する作用のあるビタミンB群を食事やビタミン剤で積極的に補給することで、回復を早める効果が期待できます。口内炎の治療薬は以下のように様々な剤形があります。自分の好みや症状に合わせて使い分けすると良いでしょう。

・飲み薬・・・口内炎の部位、範囲に関わらず使用可能です。炎症を抑える成分やビタミンが含まれているケースが多いです。
・貼り薬・・・炎症の範囲が小さい場合に適しています。外部からの刺激を保護する役割もあるのでおススメです。貼った薬がそのまま口の中で溶ける製剤もあります。
・塗り薬・・・患部が複数点在していたり、範囲が広い場合に適しています。口内炎の大きさに合わせて量を調節できるので、効率よく使用できる剤形です。

通常、口内炎は長くても2週間ほどで治まります。2週間以上治らない場合や何度も繰り返す場合、腫れて膿がたまるような症状がある場合は早めに病院を受診しましょう。

いかがでしたでしょうか。口内炎の症状やおくすりで困った事があれば、お気軽に薬剤師に相談して下さいね。

（薬局　はせがわ）

新入職員のご紹介

３月から回復期病棟を担当しています医療ソーシャルワーカーの今本葉子（いまもとようこ）と申します。
MSW として勤務したのち、介護保険開始間もない頃よりケアマネジャーとして在宅で生活される方にかかわって来ました。これからは在宅生活にかかわってきた経験を活かし、患者様やご家族が不安なく退院後の生活を迎えられるよう少しでもお力になれるようスタッフと協力しながらお手伝いさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（MSW　いまもと）

はじめまして！昨年１２月から地域連携相談センターの広報、事務として勤務しております佐野　真紀子（さの　まきこ）と申します。
さまざまな職種を経験しましたが事務職は初めてで、覚えることは沢山ありますが先輩方に助けていただきながら毎日奮闘しています。まだまだ未熟ではありますが地域の皆様とのつながりを大切に、健康のお手伝いができるようがんばっていきます。
趣味はドライブに出かけたり、おいしいものを食べ歩いたりすることです。（最近は食パンにはまっています）また今年から運動不足解消のため１０年ぶりにスキーを始めました。これからも好奇心旺盛でいろいろなことにチャレンジしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします！！

（広報　さの）

リハビリテーション部より福祉用具のご紹介

これまでは「食事」「入浴」「排泄」をテーマに福祉用具のご紹介をさせていただいていました。今回は「更衣」をテーマにひとつご紹介をさせていただきます。

「更衣」は、安全かつ生活を豊かにするために大切な活動です。

『 ソックスエイド 』

自分で靴下を履くための福祉用具です。
股関節・膝関節の疾患がある方、
妊娠中や腰痛から腰を深く曲げて
足元まで手が届きにくい方に非常に
便利です。

使い方

①ソックスエイドに靴下をはめる

②靴下に足を入れる

③ヒモを引く

購入について

介護用品店やインターネットを活用して購入する事ができます。
値段は５００円～３０００円と幅広いです。

（作業療法士　そがべ）

編集後記

連日の新型コロナウイルスの拡大により終息の目途が見えない中で、不安や不自由な毎日を送っていらっしゃる方々も多いと思います。職員一同、持ち込まない・広げないを目標に日々奮闘しております。「おやつの日」と称してイチゴのシュークリームとコーヒーを提供したり、ペーパークラフトで季節の飾りを作ったりと普段通りお過ごしいただくよう取り組んでおります。ご家族の皆様には面会制限や外出泊の制限などご協力をいただき、「徹底した対応をして頂き安心」近況報告などに対して「細やかな対応をありがとう」とお声をいただき力になっております。ワンチームとなり、引き続き安心・安全に過ごしていただけるよう対応していきたいと思っております。

（MSW　かねこ）